

## 「岡山いきいき子どもプランに係る県民意識調査」の再解析中間報告書

平成 26 年 7 月 16 日

I 再解析の目的と方法

## 1. 目的

平成 25 年度「岡山いきいき子どもプランに係る県民意識調査」の中の「一般意識調査」と「子どものいる世帯調査」の資料を再解析し、未婚者の異性の交際相手の有無・結婚願望、既婚者の子どもの有無、子どものいる世帯での 2 人以上の子ども出生・理想子ども数と実際の子どもの数に影響を与える要因を検討する。

## 2. 対象

## ①一般意識調査

岡山県全域を調査地域とし、20 歳から 49 歳までの男女を対象に、インターネットによって調査を行った。回答者は 1,599 名。

一般意識調査の再解析では、回答者の中で、未婚で子どものいない 577 名（未婚者）と既婚者 921 名（男性回答者 513 名、女性回答者 408 名）に分けて解析を行った。

## ②子どものいる世帯調査

岡山県全域を調査地域とし、保育所・幼稚園及び小学校 3 年生までの児童の保護者を対象に、配布自記式調査（保護者に対する配布は学校等を通じて行い、回収は郵送で行う）を行った。3,090 名の対象者のうち、1,503 名が回答を行った（回答割合：48.6%）。

## 3. 検証内容

## ①一般意識調査（未婚者）

被説明（目的）変数として、次の 2 つを考慮した。「現在、異性の交際相手がいっぱやいますか」という質問より、「婚約者がいる」又は「恋人がいる」と答えた人を異性の交際相手あり、「異性の友達がいる」又は「異性の交際相手はいない」と答えた人を異性の交際相手なしとした。更に、「ご自分の結婚について、どう考えていますか」という質問より、「1 年以内に結婚したい」又は「ある程度の年齢までに結婚したい」又は「理想的な相手が見つければ結婚したい」と答えた人を結婚願望あり、「わからない」又は「当分、結婚するつもりはない」又は「一生、結婚するつもりはない」と答えた人を結婚願望なしとした。

それらの年齢、性別、居住地域による分布、またそれらが個人の就業形態、年収、経済的なゆとりといった説明（独立）変数により規定されるかを検証した。

## ②一般意識調査（既婚者）

男性回答者と女性回答者を分けて解析を行った。それぞれ、男性編と女性編として結果を示した。

「あなたにはお子さんがいらっしゃいますか」という質問を用い、子どもの有無を被説明（目

的) 変数として用いた。

子どもの有無の年齢、居住地域による分布、また子どもの有無が個人の就業形態、年収、経済的なゆとりといった説明(独立)変数により規定されるかを検証した。

### ③子どものいる世帯調査

被説明(目的)変数として、次の2つを考慮した。「現在、何人のお子さんがいらっしゃいますか」という質問より、子どもが1人又は2人以上という変数を作成。次に、「理想子ども数」と実際の子どもの数との差の変数を作成した。

それらの年齢、性別、居住地域による分布、またそれらが父親の要因(父親の所得、父親の就業形態、父親の帰宅時間)、母親の要因(母親の所得、母親の就業形態、母親の子育て感情)、育児環境(世帯構成、世話を頼める人の存在)といった説明(独立)変数により規定されるかを検証した。

## 4. 解析方法

被説明(目的)変数が二値の場合はそれぞれの群の数とパーセント、連続量の場合はそれぞれの群の平均と標準偏差を算出。その後、被説明(目的)変数が二値の場合は対数線形回帰分析にて割合の比較を行い、連続量の場合は重回帰分析にて $\beta$ 係数を推定した。95%信頼区間\*も推定した。解析は、STATA 13.1 (STATA Corp., TX, USA)を使用した。

多変量解析においては、以下の変数をそれぞれ調整した。

#### ・一般意識調査(未婚者):

性別(男/女)、年齢(20-29歳/30-39歳/40-49歳)、居住地域(岡山市/倉敷市/その他の地域)

#### ・一般意識調査(既婚者)

年齢(20-34歳/35-44歳/45-49歳)、居住地域(岡山市/倉敷市/その他の地域)

#### ・子どものいる世帯調査

年齢(連続量)、居住地域(岡山市/倉敷市/その他の地域)

年齢は、父親の要因の場合は父親の年齢、母親の要因の場合は母親の年齢、育児環境の場合は両方の年齢をモデルに投入。一般意識調査とは異なり、年齢と被説明変数との明らかな線形性の関係もある為、またサンプル数も安定している為、年齢を連続量として投入した。

#### \*95%信頼区間

研究を行えば、100回中95回は信頼区間内の値をとると考えられる。これに含まれない値は偶然では説明できない結果であると考えられている。

## II. 結果：一般意識調査（未婚者）

### 1. 年齢、性別、居住地域による異性の交際相手の有無、結婚願望の有無の分布

#### ①年齢

「異性の交際相手がなし」と答えた人は40歳台が最も多く、「結婚願望なし」と答えた人も年齢があがるにつれて、増加していた。

	年齢		
	20-29歳	30-39歳	40-49歳
異性の交際相手(人数と%)			
あり	34 (23.5)	55 (25.1)	36 (16.9)
なし	109 (75.2)	161 (73.5)	175 (82.2)
不明	2 (1.4)	3 (1.4)	2 (0.9)
結婚願望(人数と%)			
あり	91 (62.8)	125 (57.1)	85 (39.9)
なし	53 (36.6)	90 (41.1)	124 (58.2)
不明	1 (0.7)	4 (1.8)	4 (1.9)

#### ②性別

「異性の交際相手なし」、「結婚願望なし」と回答した人の割合は、どちらも女性に比べて男性の方が若干高かった。

	性別	
	男性	女性
異性の交際相手(人数と%)		
あり	67 (20.2)	58 (23.6)
なし	260 (78.6)	185 (75.2)
不明	4 (1.2)	3 (1.2)
結婚願望(人数と%)		
あり	163 (49.2)	138 (56.1)
なし	163 (49.2)	104 (42.3)
不明	5 (1.5)	4 (1.6)

#### ③居住地域

「異性の交際相手なし」と回答した人の割合は、岡山市で低かったが、「結婚願望なし」と回答した人の割合は、岡山市で高くなっており、他地域と逆転していた。

	居住地域		
	岡山市	倉敷市	その他の地域
異性の交際相手(人数と%)			
あり	56 (23.8)	25 (20.0)	44 (20.3)
なし	173 (73.6)	99 (79.2)	173 (79.7)
不明	6 (2.6)	1 (0.8)	0 (0)
結婚願望(人数と%)			
あり	117 (49.8)	66 (52.8)	118 (54.4)
なし	113 (48.1)	57 (45.6)	97 (44.7)
不明	5 (2.1)	2 (1.6)	2 (0.9)

## 2. 就業形態との関連

「異性の交際相手なし」「結婚願望なし」と回答した人の割合はともに、就業形態が「正社員」の場合が最も低く、次いで「自営業・家族従業員、内職・在宅ワーク」、「派遣・契約社員、パート・アルバイト」の順で、「無職」の場合が最も高くなっていた。割合の比較をしてみると、「無職」のグループは、「正社員」のグループに比べて、「異性の交際相手なし」と回答した人の割合が1.2倍、「結婚願望がない」と回答した人の割合が1.8倍と高くなっていた。

就業形態との関連	就業形態			
	無職	自営業・家族従業員、 内職・在宅ワーク	派遣・契約社員、 パート・アルバイト	正社員
異性の交際相手(人数と%)				
あり	8 (10.7)	11 (19.6)	22 (16.5)	81 (28.7)
なし	66 (88.0)	43 (76.8)	111 (83.5)	198 (70.2)
不明	1 (1.3)	2 (3.6)	0 (0)	3 (1.1)
異性の交際相手がない場合の割合の比較*	1.2 (1.1, 1.3)	1.1 (0.9, 1.3)	1.2 (1.1, 1.4)	1.0 (参照)
結婚願望(人数と%)				
あり	24 (32.0)	27 (48.2)	63 (47.4)	173 (61.4)
なし	50 (66.7)	27 (48.2)	69 (51.9)	105 (37.2)
不明	1 (1.3)	2 (3.6)	1 (0.8)	4 (1.4)
結婚願望がない場合の割合の比較*	1.8 (1.5, 2.2)	1.3 (0.9, 1.7)	1.4 (1.1, 1.8)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

## 3. 年収との関連

年収が低いほど、「異性の交際相手なし」・「結婚願望なし」と回答した人の割合が高くなっていた。

「異性の交際相手なし」の場合の割合を比較してみると、年収「150万未満」のグループでは、「300万円以上」のグループに比べて、1.3倍になっていた。同様に「結婚願望がない」場合の割合を比較してみると、1.7倍になっていた。

年収との関連	年収		
	150万円未満	150万～300万円未満	300万円以上
異性の交際相手(人数と%)			
あり	26 (13.2)	36 (20.9)	62 (31.0)
なし	168 (85.3)	134 (77.9)	138 (69.0)
不明	3 (1.5)	2 (1.2)	0 (0)
異性の交際相手がない場合の割合の比較*	1.3 (1.1, 1.4)	1.2 (1.0, 1.3)	1.0 (参照)
結婚願望(人数と%)			
あり	77 (39.1)	101 (58.7)	122 (61.0)
なし	115 (58.4)	71 (41.3)	75 (37.5)
不明	5 (2.5)	0 (0)	3 (1.5)
結婚願望がない場合の割合の比較*	1.7 (1.4, 2.1)	1.2 (0.9, 1.5)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

#### 4. 経済的なゆとりとの関連

「ゆとりがない」と回答したグループは「ゆとりがある」と回答したグループと比較して、「異性の交際相手なし」の場合の割合が約 1.2 倍、「結婚願望がない」場合の割合が約 1.3 倍となった。

経済的なゆとりとの関連	経済的なゆとり		
	ゆとりがない	どちらともいえない	ゆとりがある
異性の交際相手(人数と%)			
あり	55 (19.8)	48 (22.6)	21 (31.3)
なし	222 (79.9)	164 (77.4)	43 (64.2)
不明	1 (0.4)	0 (0)	3 (4.5)
異性の交際相手がない場合の割合の比較*	1.2 (1.0, 1.4)	1.1 (1.0, 1.4)	1.0 (参照)
結婚願望(人数と%)			
あり	135 (48.6)	120 (56.6)	41 (61.2)
なし	138 (49.6)	91 (42.9)	25 (37.3)
不明	5 (1.8)	1 (0.5)	1 (1.5)
結婚願望がない場合の割合の比較*	1.3 (1.0, 1.8)	1.1 (0.8, 1.6)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

### Ⅲ. 結果：一般意識調査（既婚者）

#### ◆男性編

#### 1. 年齢、居住地域による子どもの有無の分布

##### ①年齢

年齢が上がるにつれて、「子どもあり」の割合は増えていた。

年齢と子どもの有無	年齢		
	20-34歳	35-44歳	45-49歳
子どもの有無(人数と%)			
あり	44 (69.8)	233 (84.7)	153 (87.4)
なし	19 (30.2)	42 (15.3)	22 (12.6)

##### ②居住地域

子どもがいない既婚者は、「岡山市」で多く、次いで「倉敷市」「岡山市・倉敷市以外の地域」の順となっていた。

居住地域と子どもの有無	居住地域		
	岡山市	倉敷市	その他の地域
子どもの有無(人数と%)			
あり	139 (74.3)	127 (88.8)	164 (89.6)
なし	48 (25.7)	16 (11.2)	19 (10.4)

#### 2. 就業形態との関連

「派遣・契約社員、パート・アルバイト」の就業形態のグループで、子どもがいない割合が高くなっていた。また、同じ「正社員」でも、「恒常的に残業あり・勤務時間が不規則」である場合は「おおむね定時退社」の場合と比べて、子どもがいない割合が若干高くなっていた。

就業形態との関連	就業形態			
	自営業・家族従業員 内職・在宅ワーク	派遣・契約社員 パート・アルバイト	正社員 (恒常的に残業あり・ 勤務時間が不規則)	正社員 (おおむね 定時退社)
子どもの有無(人数と%)				
あり	51 (83.6)	9 (75.0)	227 (84.7)	138 (86.3)
なし	10 (16.4)	3 (25.0)	41 (15.3)	22 (13.8)
子どもがいない場合の割合の比較*	1.2 (0.6, 2.4)	1.7 (0.6, 4.8)	1.1 (0.7, 1.7)	1.0 (参照)

\*年齢、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

### 3. 年収との関連

年収が低いほど、「子どもなし」の割合が高くなっていった。

「子どもなし」の割合は、「300万円未満」では、「500万円以上」と比べて、約2.6倍となっていた。

年収との関連	年収		
	300万円未満	300万円～500万円未満	500万円以上
子どもの有無(人数と%)			
あり	40 (71.4)	170 (82.5)	217 (87.9)
なし	16 (28.6)	36 (17.5)	30 (12.2)
子どもがいない場合の割合の比較*	2.6 (1.6, 4.3)	1.3 (0.8, 2.0)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

### 4. 経済的なゆとりとの関連

経済的な「ゆとりがない」と回答したグループの方が、「ゆとりがある」と回答したグループよりも、「子どもあり」の割合が高かった。これは、子どもを持つことにより、経済的なゆとりがないと感じるようになったという逆の因果が働いているのかもしれない。

経済的なゆとりとの関連との関連	経済的なゆとり		
	ゆとりがない	どちらともいえない	ゆとりがある
子どもの有無(人数と%)			
あり	199 (88.8)	190 (80.2)	33 (80.5)
なし	25 (11.2)	47 (19.8)	8 (19.5)
子どもがいない場合の割合の比較*	0.7 (0.3, 1.4)	1.1 (0.6, 2.1)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

◆女性編

1. 年齢、居住地域による子どもの有無の分布

①年齢

年齢が上がるにつれて、「子どもあり」の割合は増えていた。

年齢と子どもの有無	年齢		
	20-34歳	35-44歳	45-49歳
子どもの有無(人数と%)			
あり	72 (59.5)	155 (78.7)	79 (87.8)
なし	49 (40.5)	42 (21.3)	11 (12.2)

②居住地域

子どもがいない既婚者は、「岡山市」で多く、次いで「倉敷市」「岡山市・倉敷市以外の地域」の順となっていた。

居住地域と子どもの有無	居住地域		
	岡山市	倉敷市	その他の地域
子どもの有無(人数と%)			
あり	121 (69.9)	75 (77.3)	110 (79.7)
なし	52 (30.1)	22 (22.7)	28 (20.3)

2. 就業形態との関連

「自営業・家族従業、内職・在宅ワーク」、「専業主婦・無職」の順で、「子どもあり」の割合が高かった。逆に、「正社員」、「派遣・契約社員、パート・アルバイト」の順に「子どもなし」の割合が高かった。「子どもなし」の割合は、「専業主婦・無職」では、「正社員」と比べて、約0.7倍と統計学的にも有意に低くなっていた。

女性の就業形態としては、女性自身の「経済的なゆとり」よりも、「時間的なゆとり」があることの方が子どもを持つことに関して、優位であるといえるのかもしれない。また、「子どもあり」の母親は、長時間労働が難しく既に離職してしまっているという逆の因果が働いているともいえる。

就業形態との関連	就業形態			
	専業主婦・無職	自営業・家族従業 内職・在宅ワーク	派遣・契約社員 パート・アルバイト	正社員
子どもの有無(人数と%)				
あり	151 (79.9)	18 (85.7)	83 (70.9)	54 (67.5)
なし	38 (20.1)	3 (14.3)	34 (29.1)	26 (32.5)
子どもがいない場合の割合の比較*	0.7 (0.4, 1.0)	0.6 (0.2, 1.9)	1.1 (0.7, 1.6)	1.0 (参照)

\*年齢、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記



### 3. 年収との関連

年収が高いほど、「子どもなし」の割合が高かった。「子どもなし」の割合は、「年収なし」では、「150万円以上」と比べて、約0.7倍と統計学的にも有意に低くなっていた。

2. 女性の「就業形態」と同様の理由が考えられる。

年収との関連	年収		
	なし	150万円未満	150万円以上
子どもの有無(人数と%)			
あり	105 (79.6)	101 (75.4)	100 (70.9)
なし	27 (20.5)	33 (24.6)	41 (29.1)
子どもがいない場合の割合の比較*	0.7 (0.5, 1.0)	0.8 (0.6, 1.2)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

### 4. 経済的なゆとりとの関連

経済的な「ゆとりがある」と感じている人の方が、「ゆとりがない」と感じている人よりも「子どもなし」の割合が高かった。「男性編」と同様に、子どもを持つことにより、経済的なゆとりがないと感じるようになったという逆の因果が働いているのかもしれない。

経済的なゆとりとの関連との関連	経済的なゆとり		
	ゆとりがない	どちらともいえない	ゆとりがある
子どもの有無(人数と%)			
あり	139 (79.4)	123 (71.9)	41 (71.9)
なし	36 (20.6)	48 (28.1)	16 (28.1)
子どもがいない場合の割合の比較*	0.8 (0.5, 1.2)	0.9 (0.6, 1.5)	1.0 (参照)

\*年齢、性別、地域(岡山、倉敷、その他の地域)を調整、95%信頼区間も付記

#### IV. 結果：子どものいる世帯調査

##### 1. 年齢、居住地による子どもの数や理想の子ども数との差の分布

###### ①年齢

両親の年齢があがるにつれ、子どもの数が「2人以上」の人の割合が増えていた。また、同様に、理想とする子どもの数と実際の子どもの数の差も少なくなった。

両親の年齢と子どもの数や理想の子ども数との差			
	父親の年齢		
	35歳未満	35歳～40歳未満	40歳以上
子どもの数(人数と%)			
2人以上	273 (80.5)	410 (86.3)	506 (86.5)
1人	66 (19.5)	65 (13.7)	79 (13.5)
理想の子ども数と実際の子どもの数の差			
平均と標準偏差	0.56 (0.82)	0.51 (0.72)	0.50 (0.72)
	母親の年齢		
	35歳未満	35歳～40歳未満	40歳以上
子どもの数(人数と%)			
2人以上	406 (79.9)	459 (83.9)	365 (87.7)
1人	102 (20.1)	88 (16.1)	51 (12.3)
理想の子ども数と実際の子どもの数の差			
平均と標準偏差	0.58 (0.77)	0.50 (0.77)	0.47 (0.70)

###### ②居住地

子どものいる世帯で、子どもの数が「2人以上」の人の割合は、「岡山市」、「倉敷市」よりも、「岡山市、倉敷市以外の地域」の方が高かった。また、理想とする子どもの数と実際の子どもの数の差は、「岡山市」・「倉敷市」よりも、「岡山市、倉敷市以外の地域」の方が、開きが少なかった。

居住地と子どもの数や理想の子ども数との差			
	居住地		
	岡山市	倉敷市	その他の地域
子どもの数(人数と%)			
2人以上	411 (82.7)	381 (82.1)	448 (85.7)
1人	86 (17.3)	82 (17.7)	75 (14.3)
不明	0 (0)	1 (0.2)	0 (0)
理想の子ども数と実際の子どもの数の差			
平均と標準偏差	0.53 (0.77)	0.53 (0.73)	0.49 (0.74)

## 2. 父親の要因

### ①父親の所得との関連

子どものいる世帯で、子どもの数が「1人」と回答した人の割合は、父親の所得が低いほど高くなっていった。

「300万円未満」のグループは、「500万円以上」のグループに比べて、子どもの数が「1人」の割合が2.2倍だった。

また、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」では、「300万円未満」のグループは、「500万円以上」のグループよりも、0.11人の開きがあった。

父親の所得との関連	父親の所得		
	300万円未満	300万円～500万円未満	500万円以上
子どもの数(人数と%)			
2人以上	210 (78.1)	595 (85.1)	357 (89.5)
1人	59 (21.9)	104 (14.9)	42 (10.5)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	2.2 (1.5, 3.1)	1.4 (1.0, 2.0)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.61 (0.79)	0.51 (0.75)	0.49 (0.70)
重回帰分析のβ係数*	0.11 (0, 0.23)	0.02 (-0.08, 0.11)	参照

\*父親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

### ②父親の就業形態との関連

子どものいる世帯で、子どもが「1人」の割合は、「派遣・契約社員、パート・アルバイト」のグループで最も高く、「自営業・家族従業」「正社員(恒常的に残業あり・勤務時間が不規則)」「正社員(おおむね定時退社)」の順に低くなっていった。

「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」の開きの大きさも、同様の結果となった。

父親の就業形態との関連	父親の就業形態			
	派遣・契約社員、 パート・アルバイト	自営業・家族従業	正社員 恒常的に残業あり、 勤務時間が不規則	正社員 おおむね定時退社
子どもの数(人数と%)				
2人以上	27 (79.4)	124 (82.1)	765 (84.2)	235 (86.1)
1人	7 (20.6)	24 (15.9)	135 (14.9)	35 (12.8)
不明	0 (0)	3 (2.0)	9 (1.0)	3 (1.1)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	1.6 (0.8, 3.2)	1.2 (0.8, 2.0)	1.1 (0.8, 1.6)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.59 (0.78)	0.58 (0.85)	0.53 (0.72)	0.45 (0.75)
重回帰分析のβ係数*	0.14 (-0.13, 0.4)	0.13 (-0.02, 0.29)	0.07 (-0.03, 0.17)	参照

\*父親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

### ③父親の帰宅時間との関連

帰宅時間が遅いほど、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」の開きが大きくなった。「21時以降」に帰宅するグループは、「19時まで」に帰宅するグループと比べて、0.19人の開きがあった。

父親の帰宅時間との関連	父親の帰宅時間		
	21時以降	19-21時	19時まで
子どもの数(人数と%)			
2人以上	302 (83.4)	460 (82.9)	349 (85.8)
1人	53 (14.6)	91 (16.4)	56 (13.8)
不明	7 (1.9)	4 (0.7)	2 (0.5)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	1.0 (0.7, 1.5)	1.2 (0.9, 1.6)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.60 (0.73)	0.57 (0.75)	0.40 (0.76)
重回帰分析のβ係数*	0.19 (0.08, 0.30)	0.17 (0.07, 0.27)	参照

\*父親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

### 3. 母親の要因

#### ①母親の所得との関連

子どものいる世帯で、子どもが「1人」の割合は、母親の所得が高いほど高くなっていった。また、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」では、母親の所得が高い「150万円以上」のグループで、最も開きが大きかった。

これは、一般意識調査(既婚者)「女性編」2. 就業形態との関連と同様の理由が考えられる。

母親の所得との関連	母親の所得			
	なし	100万円未満	100万~150万円未満	150万円以上
子どもの数(人数と%)				
2人以上	344 (92.2)	311 (89.6)	163 (79.9)	375 (74.7)
1人	29 (7.8)	36 (10.4)	41 (20.1)	127 (25.3)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	0.3 (0.2, 0.5)	0.4 (0.3, 0.6)	0.8 (0.6, 1.1)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.42 (0.70)	0.39 (0.78)	0.49 (0.75)	0.68 (0.73)
重回帰分析のβ係数*	-0.25 (-0.35, -0.15)	-0.29 (-0.39, -0.18)	-0.19 (-0.32, -0.07)	参照

\*母親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

## ②母親の就業形態との関連

子どものいる世帯で、子どもが「1人」の割合は、「専業主婦・無職」のグループで最も低く、「正社員」で最も高かった。これは、①母親の所得と連動しており、同じ結果である。

	母親の就業形態			
	専業主婦・無職	自営業・家族従業、 内職・在宅ワーク	派遣・契約社員、 パート・アルバイト	正社員
子どもの数(人数と%)				
2人以上	332 (91.7)	107 (92.2)	434 (82.8)	329 (73.6)
1人	26 (7.2)	9 (7.8)	84 (16.0)	112 (25.1)
不明	4 (1.1)	0 (0)	6 (1.2)	6 (1.3)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	0.3 (0.2, 0.4)	0.3 (0.2, 0.6)	0.7 (0.5, 0.9)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.41 (0.70)	0.44 (0.68)	0.45 (0.79)	0.70 (0.73)
重回帰分析のβ係数*	-0.28 (-0.38, -0.17)	-0.24 (-0.39, -0.09)	-0.24 (-0.33, -0.14)	参照

\*母親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

## ③母親の子育て感情との関連

子育てが「いつもつらい・つらいと感じる時の方が多し」と回答するグループで、子どもの数が「2人以上」と回答する割合が高かった。

また、「いつもつらい・つらいと感じる時の方が多し」と回答するグループで、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」の開きが少なく、「いつも楽しい」「楽しいと感じる時の方が多し」と感じているグループで、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」の開きが大きいという結果だった。

子どもの数が増えることで、不安や心配が増え、「精神的なゆとり」がもてない母親が少なくないということではないだろうか。

	母親の子育て感情			
	いつもつらい・つらいと 感じる時の方が多し	楽しい時とつらい時が 同じくらい	楽しいと感じる時の方 が多い	いつも楽しい
子どもの数(人数と%)				
2人以上	44 (89.8)	292 (86.7)	730 (82.8)	76 (80.0)
1人	5 (10.2)	45 (13.4)	152 (17.2)	19 (20.0)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	0.5 (0.2, 1.2)	0.7 (0.4, 1.1)	0.9 (0.6, 1.3)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.42 (0.99)	0.48 (0.77)	0.61 (0.83)	0.61 (0.83)
重回帰分析のβ係数*	-0.20 (-0.46, 0)	-0.14 (-0.32, 0.03)	-0.07 (-0.23, 0.10)	参照

\*母親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

#### 4. 育児環境

##### ①世帯構成との関連

「3世代」よりも「2世代」の世帯構成のグループで、子どもが「1人」の割合が高く、1.7倍という結果だった。「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」は、「2世代」と「3世代」で、ほぼ差がなかった。これは、親世代からのサポートを受けにくい「2世代」の世帯では、初めから理想とする子どもの数が「3世代」の世帯と比べやや少なかったのも理由と思われる（理想子ども数平均：2世代世帯 2.71人、3世代世帯 2.83人）。

世帯構成との関連	世帯構成	
	2世代	3世代
子どもの数(人数と%)		
2人以上	922 (83.8)	241 (87.0)
1人	178 (16.2)	36 (13.0)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	1.7 (1.1, 2.5)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.52 (0.75)	0.51 (0.73)
重回帰分析のβ係数*	-0.01 (-0.11, 0.10)	参照

\*両親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

##### ②世話を頼める親族、友人、知人の存在との関連

世話を「頼める人がいない」グループは、「近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる」グループに比べて、子どもの数が「1人」の割合が1.8倍だった。

また、「近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる」グループでは、「理想の子どもの数と実際の子どもの数の差」が最も小さかった。

世話を頼める親族、友人、知人の存在との関連	世話を頼める親族、友人、知人			
	頼める人いない	近くではないが気軽に頼める人がいる	近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる	近く(歩いて30分以内)に気軽に頼める人がいる
子どもの数(人数と%)				
2人以上	78 (78.0)	343 (82.3)	215 (83.3)	568 (85.4)
1人	22 (22.0)	74 (17.8)	43 (16.7)	96 (14.4)
不明	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.2)
子どもの数が1人の場合の割合の比較*	1.8 (1.2, 2.8)	1.4 (1.0, 1.9)	1.4 (1.0, 2.0)	1.0 (参照)
理想の子どもの数と実際の子どもの数の差 平均と標準偏差	0.54 (0.75)	0.56 (0.72)	0.52 (0.85)	0.49 (0.73)
重回帰分析のβ係数*	0.08 (-0.09, 0.25)	0.05 (-0.04, 0.15)	0.02 (-0.1, 0.13)	参照

\*両親の年齢、地域(岡山、倉敷、それ以外)を調整、95%信頼区間も付記

## V. 考察・再解析の限界など

今回、平成 25 年度「岡山いきいき子どもプランに係る県民意識調査」の中の「一般意識調査」と「子どものいる世帯調査」の資料を用い、未婚者の異性の交際相手の有無・結婚願望、既婚者の子どもの有無、子どものいる世帯での 2 人以上の子ども出生・理想子ども数と実際の子どもの数の差に影響を与える要因を検討した。検証にあたっては、厚生労働省が平成 25 年に発表している「21 世紀出生児縦断調査及び 21 世紀成年者縦断調査特別報告」

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/162-1.html>) を参照にした。当該特別報告の中では、結婚・出生に対する意欲、第 1 子出生、第 2 子出生に関連する要因が検証されているが、今回の再解析においては県民意識調査を用い、当該特別報告で検証されている仮説と似たような、検証可能な仮説を検討することを目的とした。しかしながら、当該特別報告は全国の、また縦断的な調査である点、県民意識調査は岡山県の、また横断的な調査である点を留意しないとイケない。特に、様々な被説明（目的）変数（未婚者の異性の交際相手の有無など）を規定する要因（説明・独立変数）を今回の再解析では検討したが、横断調査である為、逆の因果の可能性は否定できない。一方、横断調査は、現在の状態やニーズを表しうる調査とも言える。厚生労働省の特別報告と比較して検証する際には、そのような調査手法の差異を留意する必要がある。

まず、一般意識調査（未婚者）では、就業形態が「派遣・契約社員、パート・アルバイト」や「無職」であること、年収が「150 万円未満」「150 万～300 万円未満」であること、経済的な「ゆとりがない」が異性の交際相手の有無や結婚願望の有無にマイナスに働いていた。これは、厚生労働省の特別報告で示されている『就業形態が無職、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託では、正規雇用の者に比べ、男女とも結婚を「絶対したい」と思う者が少ない』、『学卒直後の就業形態が無職だった場合、正規雇用の者に比べ男女とも 20-29 歳では結婚が起きにくい』、『男女とも、収入が高くなるほど結婚しやすい、特に男性の 30 歳以上で顕著』といった結論とも似ている。

次に、一般意識調査（既婚者）の男性編では、就業形態が「派遣・契約社員、パート・アルバイト」などのグループと比較し、「正社員（特におおむね定時退社）」で、子どもがいる割合が高くなっており、年収も高いほど子どもがいる割合が高くなっていった。しかしながら、逆に女性編では、「正社員」であること、年収が高いことは、子どもを持つこととは負に関連をしていた。これは上述したように、「子どもあり」の母親は、長時間労働が難しく既に離職してしまっているという逆の因果が働いていると考えられる。厚生労働省の特別報告では『妻の就業形態がパート・アルバイトや派遣社員・契約社員・嘱託では、正規雇用の者に比べ、第 1 子出生が起きにくい』と結論付けられているが、これは横断調査と縦断調査という調査手法の違いからくる結果と考えられる。今回の再調査からの結果は、女性にとって就労しながら子どもを持つ、子どもを持った後に就労を続けるということの難しさを示しているのかもしれない。また、男性編・女性編とも、子どもを持つことにより、経済的なゆとりがないと感じるようになったという結果も垣間見られた。

最後の解析として、子どものいる世帯調査では、子どもの数が「2 人以上」になる・理想の子どもの数と実際の子どもの数との乖離という被説明（目的）変数を規定する要因を検討した。父親の所得が低いほど、父親の就業形態が「派遣・契約社員、パート・アルバイト」であるほど、子ど

もの数が1人である割合が高くなり、乖離も大きくなっていった。また、父親の帰宅が遅くなるほど、乖離は大きくなっていった。母親の要因に関しては、上述の一般意識調査（既婚者）女性編と同じく、「正社員」であること、年収が高いことは、子どもを「2人以上」持つことに負に働き、乖離を大きくしていた。また、子どもの数が多くなるほど、母親の育児に関するストレスが増加しているという結果も垣間見られた。実際、これは、育児環境に関する検討から得られた「3世代世帯」や「近くに気軽に世話を頼める人がいる」と答えた人の方が、子どもを「2人以上」持っているという結果からも分かるように、子どもを持つ世帯へのサポートの必要性を伺わせる。

この子どものいる世帯調査に関する再解析結果は、厚生労働省の特別報告の『第1子出生後に夫の育児参加が多いほど第2子出生が起きやすい傾向』といった結果や、『希望子ども数が実現されない主な要因』として『平日日中の保育者が妻のみ』や『親と同居していない、妻の勤務先に育児休業制度があるが利用しにくい又はどちらもいえない、育児休業制度がない』が考えられるという結果と似ている。しかしながら、上述の調査手法の違いからだと考えられるが、当該特別報告の『第1子出生後に妻の子育ての不安や悩み・育児負担感が大きいほど第2子出生が起きにくい』という結果とは今回の再解析の結果は異なり、子どもの数が多くなるほど、母親の育児に関するストレスが増加している傾向があった。子どもを多く持った家庭へのサポートの必要性も伺える。

今回の調査の限界としては、対象者の代表性の問題がある。実際、インターネット調査では、調査に協力出来た集団がやや偏った集団になったのか、一般意識調査（既婚者）の結果で、45-49歳は変わらないが、20-34歳の男性と女性で、女性の方が子どもを持っていないと回答している人の割合が高かった（男性：30.2%、女性：40.5%）（6頁と8頁）。この結果からも、既婚で子どもを持つ20-34歳の女性が参加できなかった可能性、つまり回答する時間的余裕がなかった可能性が考えられる。また、子どものいる世帯調査でも、回答割合は48.6%とやや低めだった。その為、記述的な値（例えば、異性の交際相手の有無や結婚願望の有無などの割合）を岡山県全体の同年齢層に一般化することは難しいかと思われるが、被説明（目的）変数と説明（独立）変数の関連を検証した結果は、厚生労働省の特別報告とも結果が似ており、より妥当な、かつ一般化可能な結果だと考えられる。

また解析においては、結果を歪める可能性のある要因（年齢、性別、地域）については出来るだけ調整を行った。

## VI. まとめ

- ・「岡山いきいき子どもプランに係る県民意識調査」の中の「一般意識調査」と「子どものいる世帯調査」の資料を再解析した。
- ・「一般意識調査」では、未婚者においては、就業形態が派遣・契約社員、パート・アルバイトや無職であること、年収が低いこと、経済的なゆとりがないが異性の交際相手の有無や結婚願望の有無にマイナスに働いていた。
- ・既婚者においては、男性では正社員（特におおむね定時退社）や年収が高いほど子どもがいる割合が高くなっていった。しかしながら、逆に女性編では、正社員であること、年収が高いことは、子どもを持つこととは負に関連をしていた。女性にとって就労しながら子どもを持つ、子どもを



持った後に就労を続けるということの難しさを示しているのかもしれない。また、男性・女性とも、子どもを持つことにより、経済的なゆとりがないと感じるようになっていた。

・「子どものいる世帯調査」においては、父親の所得が低いほど、父親の就業形態が派遣・契約社員、パート・アルバイトであるほど、子どもの数が1人である割合が高くなり、理想の子ども数との乖離も大きくなっていった。逆に、「一般意識調査」の結果と同じく、母親が正社員であること、年収が高いことは、子どもを多く持つこととは負に関連していた。

・また、父親の帰宅が早い、3世代世帯、近くに気軽に世話を頼める人がいるなどサポートを受けられる環境の人の方が、子どもを多く持っており、子どもの数が多くなるほど、母親の育児に関するストレスが増加しているという結果も垣間見られた。